

# 堂 谷 津 の 里 か ら

堂谷津の里では、5月25日から一般参加者も交えて田植えが始まり、6月1日には「親子で米づくりと自然の体験」の田植え、6月4日には会員による田植えと続きます。

前回のニュースレターNo.24で、堂谷津の里が環境省の自然共生サイトに認定されたとの報告をしましたが、その後、環境省の視察があり、今回はその説明資料の一部を掲載しました。

6月15日には認定記念講演会を開催し、環境省のすすめる生物多様性回復の国際目標 30by30の取組みのもとで地域の環境保全や地域の活性化の今後を展望します。多くの会員の皆さんの参加をお願いします。

## 【田んぼでは】



親子で米づくり体験家族  
と一緒に稲の種まき



ビニールハウスで育苗後  
田んぼに移動して育苗



田植え  
(畝間 39 cm 株間 30cm)

## 【自然共生サイト認定】



認定証授与式



谷当工房に展示した認定証



環境省視察案内

## 環境省視察のための説明資料（抜粋）

### 【私たちの環境保全活動】

私たちは、千葉市及び地元の土地所有者との活動協定に基づいて環境の改変を避けながら二次的自然の回復を図り、この環境を自然観察や環境教育に生かす活動を行ってきました。

#### （1）谷津田の米づくり

谷津低地の湿地環境の回復を第一の目標にして、課題を解決しながら都市住民が取り組める米づくりを進めてきました。栽培法は湧水利用の無農薬・冬期湛水不耕起移植栽培です。

私たちは 2012 年以來現在まで、農薬を使用せずに米づくりを行なってきました。

「堂谷津の里」の無農薬の田んぼで、目立った病虫害を受けずに米づくりを続けてこられた理由を、千葉県立中央博物館の 林 紀男 先生にお聞きしました。

以下が先生から頂いた回答です。

「堂谷津で病虫害の発生が軽微」なのは、生きものが豊かなことが背景にあります。

谷津田の生物多様性と無農薬の米づくり

これは過去の化学物質に過度に依存した農法では成し得なかったことです。

その反省に立って、「総合的病虫害・雑草管理 (IPM : Integrated Pest Management)」が推奨されてきました。

堂谷津では、さらに高度な「総合的生物多様性管理 (IBM : Integrated Biodiversity Management)」を実践し成立させているのです。素晴らしいことです。

### (2) 森づくり (目標林型)

※次回のニュースで掲載します

### (3) 動植物の保護・保全

里山は、人と自然が適度にに関わり合う中で豊かな生態系を保ち多様な生物が守られてきました。しかし、人がその環境を維持できなくなると荒廃が進み、自然に作り上げてきた里山環境が崩れ、貴重な動植物が衰退していきます。堂谷津の里では、人が再び手を加えることで里山の様々な生態系を取り戻し多様な動植物が関わり合いながら生きる環境となるように整備しています。

堂谷津の里にらす動植物 (調査記録より)

#### 植物 462種

草本 341種(イネ科除く)  
シダ植物 22種、樹木 99種

#### チョウ 57種

ナミアゲハ、キタテハ、ヤマトシジミ、クロノマチョウなど

#### トンボ 22種

シオカラトンボ、ノシメトンボ、アキアカネ、オニヤンマなど

#### 両性類 5種

ニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエルなど

#### 爬虫類 8種

ニホンカナヘビ、ヒガシニホトカゲ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシなど

#### 哺乳類 10種

タヌキ、アナグマ、イタチ、ノウサギ、ハクビシン、ライグマ、モグラなど

#### 鳥類 43種

モズ、ウグイス、シジュウカラ、コゲラ、メジロなど、

#### <情報コーナー>

6月11日13時半~千城台コミュニティセンターで総会が開催されます。

6月15日開催の自然共生サイト認定記念講演会についてはホームページをご覧ください。

#### NPO 法人バランス 21

E-mail:yatosatoyama@gmail.com

URL :<https://balance21.jimdo.com/>

連絡先：千葉市若葉区谷当町 70

TEL & FAX:043-239-0645 (現地)